

希望を未来へーこどもホスピスプロジェクト

公募結果

■ 概要

選考結果	採択
団体名	一般社団法人北海道こどもホスピスプロジェクト
所在地	北海道旭川市
代表者名	佐藤 貴虎
申請事業名 主題	命を脅かす病気を持つ子ども、その家族に寄り添い共に歩む場作り
申請事業名 副題	命を脅かす病気を持つ子どもと家族が地域の中で豊かに生きることを支える
解決すべき社会課題	<p>【領域と分野】</p> <p>1) 子ども及び若者の支援に係わる活動 - 日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援(②) ・命を脅かす病気を持つ子どもが、人との関りの中でどのような状況下でも自らの人生を豊かに生きていくことのできる時間、空間の創造</p> <p>2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動 - 社会的孤立や差別の解消に向けた支援(⑤) ・命を脅かす病気を持つ子ども、その家族が、地域とのつながりのなかでともに在ることの意味に気づくことの出来る場づくり</p> <p>3) 地域社会における活力の低下その他の困難な状況に直面している地域の支援に係る活動 - 安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援(⑦) ・命を脅かす病気を持つ子ども、その家族が、自分たちの日常を知るスタッフがともに寄り添うことで、安心安全を共に感じることの出来る場づくり</p>
申請事業の概要	<p>北海道は日本総面積の22%を占めている。そのため、命を脅かす病気や障がいを持つ子ども、その家族は広範囲に渡り、他都府県と比べても制度の狭間に陥り社会的に孤立してしまいがちによりなりやすい課題がある。そこで北海道こどもホスピスプロジェクトでは2つの側面からこの課題解決に取り組みたいと考えている。1つ目は北海道における唯一の小児がん拠点病院となる北大病院との協力は大変重要となるため、定期定期にこども、家族、病院関係者と対話を重ねながら、札幌を中心として、北海道全体から集まってくる命を脅かす子ども、その家族の心の拠り所としてのこどもホスピスサービスの一部を提供していく。この活動の中で、コロナ禍で滞っていた北海道・札幌市との土地交渉等も継続して行くこととなる。一方では全道のこども、家族とともに寄り添う事業を展開していく基盤整備を開始する。全道での展開においては、旭川、函館、帯広、釧路、網走、稚内等地方都市におけるニーズ調査を実施のうえ、地元の関係各所と協力しながら人材育成、協力体制をはかりつつ、スヌーズレンやおもちゃ、PC等を積み込んだホスピスカーを導入し希望に応じてスタッフが地域に赴き、こどもとしての時間、家族としての時間を提供できる体制を作りあげていく。</p>
事業実施地域	北海道
申請事業期間	2021年4月～2024年3月

申請助成額	20,000,000 円 【内訳】直接事業費 20,000,000 円、管理的経費 0 円
-------	--

■ 審査コメント

- ✓ 5年以上の活動実績によりコミュニティからの一定の支援を有する
- ✓ ホスピス・バスの運営は地域の広域性を克服するための方策として評価できる
- ✓ 行政との交渉や、クラウド資金により札幌市にホスピス拠点を設ける計画
- ✓ 事業フェーズに即した適切なアウトカムを設定している